



発行
東区人権尊重啓発連絡会議
事務局：東区総務部
生涯学習推進課
(TEL645-1144)
(FAX645-1042)
題字 池見 裕道氏
挿絵 田村真知子氏

東区人権を考えるつどい

東区人権尊重啓発連絡会議は、様々な人権問題の解決をめざし、差別のない明るいまちづくりを進めるため「東区人権を考えるつどい」を令和元年9月25日に東市民センターで開催しました。

フリーライターの岡野雄一氏を講師に迎え、ペコロスの母に会いに行く、認知症になった母との日々を振り返ってと題した講演会でした。



「ペコロスの母に会いに行く」
(西日本新聞社)より

基づく愛情にあふれたお話は、長崎弁丸出しで朴訥と語られ会場は笑いあり、涙ありで大いに盛り上がりました。



認知症の方を介護する人が24時間頑張り過ぎて先に倒れてしまわないように、息抜きで自分が元気になれるよう「プチ親不孝」を勧められました。

また、お母様の口癖である「生きとけば、どげんでんなる」を歌詞にした曲を生ギターによる弾き語り、生きることの大切さを熱唱されました。

参加者の声

締めのお話として、「プチ親不孝」で介護から逃げてよい、自分が元気を取り戻して相手としつかり向き合うことの大切さを語られました。

- 介護をする中での息抜き(プチ親不孝) はなるほどと思った。
- 生きとけばどうにかなる。生きることがどれだけ大切かのお話を色んな所で伝えたい。
- 夫が認知症になり、今後の私の心構えを教えてもらった気がします。明るく手を取り合って行きます。
- とても具体的に親子の気持・感情が素晴らしかったです。

人権を尊重する市民の集い

第48回 福岡市人権尊重週間「人権を尊重する市民の集い」が令和元年12月9日に東市民センターで開催されました。

初めに、生活困窮者の住居や生活などを支援する社会福祉法人グリーンコープ抱樸館福岡より「生活困窮者自立支援の取り組み」というテーマで実践報告がありました。

まず生活困窮者には、「経済的困窮」と「社会的孤立」があつ



て、その二つの悪循環を断ち切るために必要といふ説明があり、具体的な支援事例が紹介されました。

また、退去された方々が再び「社会的孤立」にならないようアフターフォローが必要であり、退去者を中心としたボランティア活動を行う「えにし」の会」を作り、仲間を偲ぶ会や退去者同士の見守り活動「身体的虐待」



も検討されています。

続いて、作家・エンパワメントセンター主宰の森田ゆりさんが「生きる力の人権と虐待やDV防止に向けて」というテーマで講演されました。

「生きる力」とは、シンプルに「自分は大切な人」と思えること。「自分は自分のままで十分尊い」と思える時、人は困難を乗り越えて生きる力を発揮できる。その生きる力を「人権」と呼ぶと語られました。

また体罰は、「身体的虐待」にエスカレートすることが多く、虐待をなくすには「体罰は時には必要」という考えから「体罰が必要時はない」という考えへの意識改革が必要だと訴えられました。

さらに、頻発している児童虐待死事件の背景には、その母親もDV被害者であることが多いと指摘。DVの恐ろしさは、「殴る・蹴る」の暴力よりもマインドコントロールされ、感情や思考の停止に陥り、子どもへの虐待に向かうことがあるということでした。

実践報告・講演から、改めて命の大切さや、自分やすべての人の命を守るために、人権を尊重することができました。

活動団体紹介

東区民生委員 児童委員協議会

「東区民生委員児童委員協議会」は、24地区(30校区)において約440人の委員が活動し、東区の地域福祉を支えています。

民生委員・児童委員は、地域から推薦され、厚生労働大臣からの委嘱を受けて活動する無償のボランティアです。

子育て世帯の相談相手になったり、介護などの福祉サービスを必要としている人に関係福祉機関を紹介する「つなぎ役」としての役割も担っています。

同協議会は日々の委員としての活動の一層の充実を図るため、啓発活動や各種研修会などを行っています。研修会では、「地域福祉」「自立支援」「高齢者」「障がい者」「子ども」

民生委員・児童委員には守秘義務があり、相談内容は他の人に伝わることはありません。個人情報やプライバシーに配慮した支援を行います。何か困ったことがあれば、地域の民生委員・児童委員に相談してください。

これからも地域の皆さんに寄り添い、行政と連携を図り、活力ある地域共生社会の実現に向けて尽力してまいります。



熊本市「慈恵病院」にて

東区民生委員 児童委員協議会
会長 小田原 睦子

香陵校区の活動紹介

やすらぎのまち香陵(人尊協)

会長 安部 五男

香陵校区は、昭和57年に誕生した新しい街で、小学校は平成4年に開校しました。香椎浜一丁目・四丁目からなる面積が0.32km²、約2,100世帯、人口約5,300人のこじんまりした校区で



す。ここには戸建て住宅はなく、全て集合住宅となっています。昭和59年に開館した九州大学国際交流会館(留学生会館)が、平成30年9月に閉鎖。跡地にマンションが建設予定で、現在工事中です。今後、人口の増加も見込まれ、今から待ち遠しい限りです。



年間の主な活動

- 総会
- 講演会への出席
- 委員研修会への参加
- 広報誌発行
- 「やすらぎのまち香陵だより」運営委員会 運営委員の意思疎通と事業計画の周知徹底
- あいさつ運動の一つとして、児童を対象にあいさつ標語の募集
- 公民館文化祭の場で入選者発表と表彰
- 啓発運動として、あいさつ標語最優秀賞の作品をゴミ袋に貼って全戸に配布
- 小学校の運動会でPTAと共催し綱引き大会を実施

● 新しい取り組みとして、なかよし文庫にて、月一回人権の本の読み聞かせ

香陵校区は、東区26校区の人尊協の中で、唯一「人権尊重推進協議会」の名称以外の「やすらぎのまち」という名称で活動をしています。今後とも、全ての地域住民が差別のないまちづくり、住んでみて心やすらぐまちづくりを目指して活動していきたいと思えます。



奈多校区の活動紹介

奈多校区人尊協 広報部会長 石井 秀子

「互いに学び、人権に対する正しい理解と認識を深め、人と人がふれあう心豊かな校区づくりを推進する」ことを目的とし、平成11年に奈多校区人権尊重推進協議会が誕生しました。

啓発・研修・広報の各部会は、町内会長、校区各種団体、小・中学校、地域の有識者等個性豊かな人々で構成しています。啓発部は、人権尊重に関する標語の職や横断幕を作成し、公民館やJRの駅、小学校に



「認知症の問題」「障がい者問題」等の幅広い人権問題に取り組み、意識改革を図ってきました。今年度は「事件の被害者と人権」についての講演会を開催。加害者の人権は議論されても、突然の事件や事故に



泣く人がいない明るい校区づくりのために、充実した学習の場を持ちたいと考えています。

広報部は、「人尊協奈多」を年2回発行しています。1号から2号の紙面を振り返ると、人尊協の活動だけでなく、校区の様々な団体が行っている、心豊かに互いを思い合う活動についても発信しています。地域の紙に読んでもらえる魅力ある広報紙を目指し、平成29年3月号か

巻き込まれた被害者やその家族の人権が守られていないという事実が驚かされました。今後も、差別や虐待など、あらゆる人権問題に心を寄せ、いわれのない事

ら紙面をカラー印刷にしました。また、「松風だより」のコーナーは、地域の「ちよつといい話」や「豆知識」などを掲載し、より親しみ易い紙面になるよう工夫しています。

自主防災組織をはじめ、男女共、社協、民児協の他、校区の各団体は「人を大事に。そして、一人ひとりを大事に」を目標に日々活動しています。人尊協は、その中心となり、皆さんの協力を得ながら、安全で安心して暮らせる街づくりのための諸施策を今後とも、着実に推進して



令和元年度 人権尊重啓発連絡会議 活動のあゆみ

- 7月 ● 総会・研修会
「人権はなぜ嫌われるのか」
講師:ジャーナリスト(元西日本新聞記者) 馬場 周一郎さん
- 9月 ● 人権を考えるつどい
1面の記事をご参照ください
- 12月 ● 人権を尊重する市民の集い参加
1面の記事をご参照ください
- 2月 ● 広報紙「コスモス」発行
● 人権尊重啓発活動交流会(予定)
広報・啓発・研修の3部会に分かれ、実践報告及び情報交換

◆東区人権尊重啓発連絡会議では、今後も皆様のお役に立つ講演などを計画します。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

人権尊重週間 東区の入選作品から

人権ポスター



小学1年生



小学3年生



小学5年生



小学5年生



中学1年生

人権標語

- いやなことするのも言うのもだめなこと 小学5年生
- 話そうよ 画面よりも相手見て 小学5年生
- 関係ない そうしていつも にげるのかい 小学5年生
- あいさつは 大きな声と いい笑顔 小学6年生
- つながよう 心のワイファイ 自分から 小学6年生